

吉井源太没後110年 記念企画展

「紙の交流・源太と 日本の和紙産地ー明治から 始まった絆を、新たに結ぶー」

会期：10月6日(土)～11月11日(日)

場所：いの町紙の博物館

紙の話から
まちの未来が
見えてくる

＜基調講演・紙のまち交流フォーラム＞

▶日時 10月20日(土) 13:30～

▶場所 いの町役場本庁舎1階いのホール

■基調講演

村上弥生 氏 [本展監修/吉井源太研究家・博士(農学)]

■フォーラム・パネリスト

出雲和紙(島根県) 安部信一郎 氏(出雲民芸紙工房)

伊予和紙(愛媛県) 脇 憲久 氏(有限会社丸あ製紙所)

因州和紙(鳥取県) 長谷川憲人 氏(鳥取県因州和紙協同組合理事長)

小国和紙(新潟県) 今井 千尋 氏(小国和紙生産組合)

美濃和紙(岐阜県) 石原 英和 氏(美濃手すき和紙協同組合副理事長)

土佐和紙(高知県) 大勝 敬文 氏(高知県手すき和紙協同組合理事長)・田村 寛 氏(手すき和紙職人)

★どなたでもご参加いただけます。詳しくは紙の博物館ホームページ (<http://kamihaku.com/>) をご覧ください。

高知の紙業発展の礎を築いた製紙家・吉井源太。明治時代になって、殖産興業の波に乗り、洋紙の国内生産が始まるなか、新しい和紙の開発も急務でした。各地の和紙産地は土佐和紙の先進技術に注目します。日本各地の産地から、職人たちが源太のもとへ、製紙や道具などの新技術を学びに訪れました。あるいは、産地の要請に応じ、源太や周囲の職人たちが製紙技術の指導に向きました。こうして技術指導が行われた紙産地は、30の府県に及びました。

企画展に伴い、吉井源太が残した記録などから、島根県・新潟県・岐阜県・愛媛県・鳥取県の産地と、新たに交流し「紙のまち・いの町」にて「紙のまち交流フォーラム」を開催します。現在の産地が抱える課題や展望を話し合い、未来に向けてビジョンを掲げ、明治から始まった絆を、新たに結びます。